

## 平成20年度 第1回千葉県社会福祉審議会老人福祉専門分科会 議事概要

1 日 時 平成20年5月14日(水) 午前10時00分から12時05分

2 場 所 千葉県自治会館9階 第3会議室

3 出席者

林会長、赤田委員、岩田委員、國生委員、小林委員、野老委員、中村委員、早川委員、丁子委員、横山委員、吉井委員(以上11名)

[欠席]

伊佐治委員、井上委員、鎌田委員、清水委員、高橋委員、根本委員  
(以上6名)

【事務局】

飯田高齢者福祉課長、永野副課長、里見在宅福祉推進室長 ほか

4 内 容

(司会：永野副課長)

定刻を過ぎていきますので、会議を始めます。この分科会は、前回もご説明しましたが、公開とします。会議録も県庁のホームページで公開しますので、ご了解くださるようお願いいたします。

それでは、ただいまより平成20年度 第1回千葉県社会福祉審議会老人福祉専門分科会を開催いたします。私は、本日司会進行を務めます高齢者福祉課副課長の永野と申します。以前は松本前副課長が担当しましたが、私が担当することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは開催に当たりまして、高齢者福祉課飯田課長より、皆様にご挨拶を申し上げます。

(飯田課長)

おはようございます。高齢者福祉課長の飯田でございます。本日はお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。

本日は、平成20年度の第1回目の会議でございます。本日の議題につきましては、前回の3月に開催させていただきました会議でも議題にした「生涯大学校について」でございます。前回は、委員の皆様方から大変貴重なご意見をいただきまして、この席をお借りしてお礼申し上げたいと思います。

ただ、生涯大学校の事業につきましては大変大きな事業ということで、県といたしましては社会福祉審議会に諮問させていただいて、その審議を踏まえながら見直しをしていきたいと考えているところでございます。

本日の会議内容につきましては、生涯大学校に係わる世論調査、その結果などを報告するとともに、前回皆様方からいただいたご意見等を踏まえまして、見直しに当たっての視点につきましては、議題とさせていただきました。よろしくお願いいたします。

てご挨拶とさせていただきます。

(永野副課長)

ここで今年度新たに、この社会福祉審議会の委員にご就任されました方をご紹介いたします。委員名簿をご覧いただきたいと思いますが、9番目に千葉県ホームヘルパー協議会副会長の高橋芳恵様が新たに委員にご就任されましたので、ご紹介いたします。本日は都合により欠席となっております。

本日は平成20年度第1回目の会議ですので、ご出席いただきました皆様をご紹介させていただきますと思います。

【分科会会長、以後委員を名簿順に紹介】

本日ご欠席の委員などにつきましては、お配りしました名簿をご覧いただきたいと思っております。

次に、新年度で職員の異動もありましたので、事務局をご紹介させていただきます。

【事務局職員を席順に紹介】

それでは、今後の進行につきまして、千葉県社会福祉審議会規程第12条の規定により、分科会長が行うこととされていますので、林会長よろしく願いいたします。

(林会長)

皆さんおはようございます。なんか天候が不順といいですか、暑くなったり寒くなったり、体がついていけないような感じでございます。大変足元の悪い中ご出席をいただきまして、ありがとうございます。早速議事の方へ入りたいと存じます。

まず議事に入る前に、前回の分科会で皆さんから本当に活発なご意見をいただきました。それを事務局の方で色々と整理をしてくれています。これは参考ということでデータがあると思いますが、後程ご覧いただければと思います。

では事務局、ご説明の方をお願いいたします。

(椎名副主幹)

私の方から説明をさせていただきます。資料の2をご覧いただきたいと思っております。前回3月27日の皆様のご意見に、参考となる調査関係の説明をさせていただきます。

一つ目に、第35回県政に関する世論調査、二つ目に平成17年国政調査等、三つ目に他県の高齢者大学校等実施状況、ご意見の中にごございました兵庫県のいなみ野学園の概要も併せて説明をしたいと思います。そして市町村の生涯学習等実施状況についてでございます。

それでは1ページをご覧ください。「第35回 県政に関する世論調査」が、昨年11月から12月にかけて行われました。抽出については、満20歳以上の男女3,000人を層化二段階無作為抽出ということで、抽出されて調査を行ったわけですが、回答数1,592、53.1%でございました。

地域性の説明をこの後しますが、その地域については、中央地区が千葉市と習志野、

市原、八千代それから長生郡市、夷隅郡市、山武郡市になります。東地域が銚子、海  
匝、香取郡市と印旛郡市になります。それから南地域ですけども、館山、鴨川の安房  
郡市、君津市周辺になります。西地域ですけども、東葛のエリアの市になります。

比較の方でもう一つ、生涯大学校の学園の位置ですが、京葉学園がある地域として  
は千葉市、それから周辺の習志野、八千代、市原と印旛郡市になります。東葛飾学園  
については、先ほどの県政世論調査に関係する西地域と同様でございます。東総学園  
のエリアについては、先ほどの東地域から印旛郡の地域が除かれました銚子、海匝、  
香取郡市のエリアになります。

外房学園につきましては、中央地区の千葉市周辺を除きました山武郡市、長生郡市、  
夷隅郡市になります。南房学園については、先ほどの南地域で説明したエリアと同様  
の君津周辺と安房郡市になります。ということで、県政に関する世論調査の中央、東  
の地域が学園のエリアと若干異なりますので、ちょっと注意が必要になります。

それでは、実際の調査の関係についてご説明をいたします。次の3ページをご覧く  
ださい。

まず「生涯大学校」に関する調査項目といたしまして認知度・入学意向の関係でご  
ざいます。認知度について知っている、また、名前は知っているという数値につつま  
しては、中央地区 49.1%、西地域 41.7%で低いですが、東地域 57.8%、南地域 50.8%  
が半数以上となっており、認知度については高いということが分かります。

入学したいと思っている方ですけども、意向として入学したい、どちらかという  
と入学したい数値は、中央地区 36.9%、西地域 33.5%となっており、東地域 32.1%、南地  
域 24.6%と、東、南地域で少なくなっているという状況です。

続きまして、「地域のニーズ」についてです。楽しみや生きがいを感じることに  
いう項目の中で学習についてですが、中央地域は 10.3%、西地域は 11%に対しまして、  
東地域 6.2%、南地域 4%となっております。併せて趣味の関係については、中央地域  
52.2%、西地域 58.6%、東地域 54%、南地域 50%と、東と南で低くなっております。

それに対しまして地域活動等、これは項目がちょっと広いですが、ボランティア・  
NPO・自治会等の項目については、中央地域は 9.9%、西地域は 9.4%に対しまして、東  
地域 8.7%、南地域 14.3%と、特に南地域の方では高くなっています。どこに該当する  
かということは若干分かりませんが、活動面という意識としては高くなっている  
ということです。

東地域の方が 8.7%ですが、先ほどのエリアの方で印旛郡市の地域が入っております  
ので、この数値の方が学園の方に関しましては、ちょっと数字的には一緒には考えら  
れない部分かと思えます。

生涯学習に関する部分についてですけども、意向として、行ってみたいと思わない  
部分については、中央地域で 25%、西地域で 23%に対しまして、東地域 26.3%、南地域  
26.2%と高くなっております。

高齢者福祉施策の重要な項目として、いくつか掲げられているわけですが、その中  
で講座や研修等の学習機会の充実、この項目に関する記述としては、中央地域 8.7%、

西地域 12.1%に対しまして、東地域 7.3%、南地域 3.2%とそれぞれ講座や研修等の充実については、望んでいないという数値が出てきております。

次に地域活動の活動状況についてですが、すでに参加しているという数値については、中央地域で 17.7%、西地域で 12.6%に対しまして、東地域 18.3%、南地域 19.8%と、先ほど申し上げたようなボランティア、NPO、自治会等という区分けの方が広範囲に渡っているものですから、それぞれ東と南のエリアの方が、参加している人が多いというデータが出ております。

5 ページの方をご覧ください。国政調査の関係からですが、第一次産業、農林漁業の関係の従事者の比率です。学園別のエリアといたしまして、京葉学園 2.4%、東葛飾学園 1.2%に対しまして、東総学園 15.2%、外房学園 9.6%、南房学園 9.3%と、一次産業従事者が多いという状態になっております。

次に高齢者世帯の状況です。65 歳以上の高齢者の比率は、京葉学園で 28.9%、東葛飾学園で 27.1%に対しまして、東総学園 50.1%、外房学園 44.8%、南房学園 42.8%と、かなり高い数値になっております。また、一人暮らし高齢者世帯も、京葉学園 5.6%、東葛飾学園 5.7%に対しまして、東総学園 6.9%、外房学園 7.3%、南房学園 7.7%となっているということです。

19 年度の千葉県年齢別・町丁字別人口調査です。先ほど申し上げたように、高齢者等の多い部分の数値の確認ですが、高齢化の状況といたしまして、65 歳以上の人口比率、高齢化率については京葉学園 17.4%、東葛飾学園 16.6%に対しまして、東総学園 24.8%、外房学園 23.6%、南房学園 23.6%と高くなっておりますけれども、実数値の方で 60 歳以上の高齢者の数を見ますと、京葉学園 55 万 2 千人、東葛飾学園 61 万 5 千人に対しまして、東総学園は 1 0 万人、外房学園は 1 4 万 7 千人、南房学園は 14 万 7 千人と、実数値の方は少なくなっております。

7 ページの方をご覧ください。前回、各都道府県の生涯大学校等、実施する高齢者の大学校の実施状況の報告を出したわけですが、その項目をそれぞれ定員・予算規模・職員数・授業料・一人当たり経費の視点でとらえてみました。47 都道府県中、高齢者大学校等を実施している数は、33 都県で設置をしております。またこの調査の方は、昨年 7 月山梨県によって調査をされたものです。

定員についてですが、規模が 200 人までと 800 人まで、こちらの方の数が圧倒的に多いわけですが、800 人を超えて 1,500 人まで、こちらの方が 3 県、群馬県・埼玉県・山梨県となっております。また、1,500 人を超えるところは、千葉県でこの数値は一般課程 1,435 名、専攻課程 715 名、合わせて 2,150 名を表示させていただいております。それと長野県 1,800 人という 2 県が、大きな定員で実施している県になります。

予算規模ですが、5 百万までと 5 千万までの県がかなり多くを占めています。5 千万を超える金額の県としては、5 千万円から 1 億円が滋賀県、兵庫県のいなみ野学園と阪神シニアカレッジになります。1 億円を超えるところは、栃木県が約 1.2 億、千葉県に至っては約 3 億の事業経費になっております。

続いて職員数ですが、5 人までの数が圧倒的に多く、ほとんどの県になりますが、

10人を超える県として、10人から30人までが8県ございます。それから31人以上というのが千葉県唯一の県でございます。千葉県の方は、前回報告をさせていただきましたが、取り扱いが2日ないし3日の交代制ということで、実人員としては70名ということで多いんですけども、週5日制等を考えれば、この半分を切る状態になると思います。

次に授業料ですが、授業料については無料のところも9県とありますが、かなりばらつきがございます。5千円までが12県、1万円が8県、1万円を超える県についても13ございます。特に千葉県が一般課程1万8千円ですけども、それを超えるところとしては、福島県の専門科が2万円、埼玉県の2年制が2万1千円、滋賀県の2万円、兵庫県のいなみ野が2万4千円、阪神シニアカレッジが2万4千円という状況になっております。

また一人当たり経費ですが、こちらの方は補助金の事業については、一部計上ということの考えから除きまして、それ以外の部分を割り当てさせていただきました。1万円までが2県で、多くのところは5万円までになります。それを超えるものとして、5万から10万円、千葉県が約7万円、滋賀県、徳島県、10万円を超えるものは栃木県が11万円、山口県が12万円となっております。

参考ですが、18年度の一人当たり経費として、実際に事業費としてかかった経費の関係で、総経費から授業料を引いた部分で、学生数の実数で割ったものとして千葉県の18年度数値を見ますと、一人当たり8万7千円かかっております。また兵庫県のいなみ野学園については、同様の算式をしますと、3万3千円ほどの経費で運営がされているという状況でございます。

8ページ、お隣のページをご覧ください。前回は資料を出しましたが、「千葉県の生涯大学の収支状況」です。指定管理料として18年度約3億、委託費として払っております。その経費に学生からの授業料を利用料収入として受けて、若干の雑収入がありますけども、約3億5千万、この金額で運営をしています。

その運営費の内訳を見ますと、人件費が56.9%と、2億近くの金額が人件費に費やされています。残り、事業費としては30.9%で約1億円です。それと建物が色々ございますので、実質の管理費としては約4千万、12.2%となっております。

下に学園別の職員数がございます。各学園でそれぞれ施設がございますので、その施設上の管理、それと学生が来ている関係で、クラス担任制の指導をするということで、それぞれ学園長・副学園長・事務員等が配置されております。場所は園芸科がちょっと離れたところがございますので、園芸科の教授が中心になりまして、それぞれ助手、事務補助が付きまして、園芸関係の授業が行われています。

陶芸については、本校舎とすぐ近くのところにほとんどの学校があるんですけど、南房学園だけは建物が離れたところがございます。取り扱い上は、それぞれ陶芸は専門の教授がついておりまして、授業の方を行っております。

共通科目として、皆さんと一緒に勉強する部分の科目と、専門科目ということで福祉科・生活科・園芸科・陶芸科に、それぞれあった部分の授業というのが全体の6割、

44 単位ということで、1 単位が 2 時間なんですけども、専門科目の授業を行っているという状況になります。

9 ページから 12 ページは各都道府県の状況で、前回お示ししたものと同様でございます。

13 ページをお開きください。前回、兵庫県のいなみ野学園のお話が色々ございましたので、ホームページから状況をまとめさせていただきました。いなみ野学園は、運営を財団法人 兵庫県高齢者生きがい創造協会で行っておりまして、県からの補助によって運営されております。設置は、この都道府県の大学の中では一番古いかと思えますけども、昭和 44 年ということです。

課程が専門の部分で、各団体や市町村の推薦を受けて実施をしている地域活動指導者養成講座というものがございます。それと一般の方々が募集をする高齢者大学講座と、大学関係から卒業されて更に上で学びたいという方々の大学院、それぞれ三つの課程が設けられております。

期間は地域活動指導者養成講座と、大学院は 2 年なんですけども、高齢者大学講座については、4 年制で実施をしています。通うのはそれぞれ週 1 回ということで、時間的なものは同様となっております。

それぞれの課程の中でも各学科が設けられておりまして、地域活動指導者養成講座は、健康管理やスポーツ・レクリエーションこういったものの普及指導を養成する部門として健康福祉科、それから老人クラブの育成や地域コミュニティづくりの指導者養成の関係で、地域環境科というものが設けられております。

一般の方が応募できる学科としては、園芸科・健康福祉科・文化科・陶芸科と四つ設けられております。卒業生を対象とした大学院についても、地域づくりと生きがい創造の二つ設けられております。内容については、それぞれ目標と学習内容に掲げている項目について、授業を実施しているということでございます。

なお、授業料については、先ほど 11 ページのところに兵庫県のいなみ野学園が 2 万 4 千円となっておりますけども、今年度から 6 万円に変更しているということでございます。また、入学金の方は従前どおり 6 千円という状況になっております。

14 ページ、「千葉県の生涯大学校の応募倍率」です。前回説明しておりますけども、質問に対して口答でお話ただけなので、再度、皆様に確認のため資料をお配りしております。

京葉学園は全体で各学科がございまして、トータルで倍率が 1.42 倍です。東葛飾学園については、陶芸科が 4.68 倍と異常に高く、合計でも 1.75 倍です。それに対しまして東総学園については、すべての学科で定員割れをしまして、合計 0.54 倍という数値になっております。

また、外房学園については生活科・陶芸科は人気がございますけども、福祉・園芸については若干定員割れをしまして、トータル 0.85 倍となっております。

南房学園については、陶芸科を除きまして定員割れをしているような状況で、特に福祉科については、若干名しか応募がないという状況で、トータル 0.45 倍という状

況でございます。

各学園を図に示しますと、真ん中に五角形の1の太線があるんですけど、その内側に南房・外房・東総が入ってきまして、定員割れを起こしているという状況です。逆に京葉学園・東葛飾学園、こちらの方がはみ出して定員の倍数を超えているというような状況で、分かりやすいかと思います。同じように学科の合計ですが、陶芸科がどこも非常に高く倍率がなっているというのが分かるかと思います。

続きまして15ページをご覧ください。「市町村の生涯学習等実施状況」につきまして、昨年の11月に調査を行いました。その結果として、地域別に高齢者を対象とした部分といたしましては、○の書いてあるところがそれぞれやっているというところ

です。60歳以上の方を対象としている何らかの講座等がある場合に、○をつけておりますけれども、33市町村ございます。ということで多くのところでやっているわけです。年齢差が違う部分のところが△で示してございます。また、やっていないのが×ということで、×の方が17市町村ございます。

次の県と同様というところがございますが、○が週1回1年以上実施しているというところで、県と同様とみなされるのが7つございます。回数は若干減りまして、月に2回程度で1年以上実施というものが、△で示している市町村になります。また、回数がかかり減りまして、月1あるいは1年に満たない、回数が少ないものについては▲で示しているような状況になります。

この中で、一番右のところに定員が書いてございます。これも分かる範囲で示したものですから、不十分なところもありますけど、15ページの真ん中辺り、東葛飾学園区域で、船橋市市民大学のいきいき学部というところで、高齢者の生涯学習をやっています。定員が335名で、学科が文化文芸・健康・パソコン・陶芸・園芸と5学科で実施している状況です。松戸市においても400名、生涯学習大学講座として、取り扱いを実施しているということで、この2市が大きな規模で実施しているところがございます。また、松戸市については、修了者の専攻科が別に設けられているということでございます。

時々皆さんも耳にするかもしれませんが、上の方から三つ目の八千代市も、料金が無料で県と同規模ということで、先ほど申し上げた週1の1年以上実施しているというふれあい大学校、こちらが定員100名で実施をしております。一つ跳んで成田市、こちらは回数が若干減りますが、同じく料金無料で生涯大学院というものを定員100名で実施をしております。

料金の関係ではほとんどのところが無料なんですけど、千葉市の方が年間3万円の授業料になっております。あと若干料金的に取っているところとして、市原市2千円、白井市5千円、我孫子市6千円、芝山町2千円の5市町だけ、料金の方を取っている部分がございます。以上で、前回の意見に関する調査とします。

(林会長)

どうもありがとうございました。千葉県の内容と全国他県の比較を今回出していた  
だいていまして、ご説明をしていただきました。今のご説明につきまして、委員の皆  
さんの方から何かございましたら、お願いしたいと思えますけどいかがでしょうか。

(吉井委員)

今の 15 ページの市町村の生涯学習という、これはこれで理解しました。現実的に  
船橋など公民館で非常に一生懸命やっている、それは入っていないんですか。

(椎名副主幹)

市町村の方に調査を求めたのが 60 歳以上を対象としました。その関係で、市町村  
において答え方が、60 歳以上の案件がないところについては、今、先生がおっしゃっ  
たように各市民・町民のための講座を設けているということで、取り扱いしている  
ところも集計として挙がっています。それは説明の方をしてございますけれども、一つ  
特定して、60 歳以上の大学なり学校があるものについては、それだけが報告されてお  
りますので、そちらの方を計上させていただきました。

(吉井委員)

関連する質問で、市川市の場合、私の大学と和洋女子大学が連携して、市川市の強  
い希望で、市民講座という生涯大学校を始めている、よその大学も千葉県でやって  
いるところはあると聞いているんです。大学の人材と地域の活性化という形です。そう  
いうのは、全くここから落ちていますね。

(椎名副主幹)

今、先生がおっしゃったのは、多分大学校とか講座で設けられているものの中で、  
直接大学と連携をとっているということで、講師の取り扱いをお願いするという感じ  
ではないかと思うんです。

(吉井委員)

なんて位置付けたらいいかわからないですけど、事例としては、市川だったら私ど  
もが江戸川区と連携してこの名前でやっているんです。市川市は市川市で市と和洋と  
3つで連携して、年間にどんどんやっています。そういうのをこれからは全然浮かん  
でこないなという感じがするので、質問したんです。それは分かりました。

それから 2 点目なんですが、千葉県生涯大学校の学園の位置というのを、私は実は  
小林先生も長くやっていらっしゃるみたいですけど、千葉県生涯大学校で 20 年くら  
いやっていたんです。この地図を見ると平面的なんです。二つあって一つは京葉学園  
が例えば市川市とか船橋とかそういうところ、それからもちろん佐倉・四街道という  
京葉学園がある部分、そうすると狭間に入っています。これは不便というのは感じま



した。

現実、私は市川市に住んで、今は佐倉に住んでいるんですが、みんな京葉学園に流れていく。京葉というのは、いちいち津田沼へ出てこちらへこなきゃならないというようなことで、佐倉の方が早いです

もう一つ2点目ですけど、東葛飾学園、いわゆる私たちが江戸川学園というんですが、京葉学園について独立した校舎でいいんですけど、実はその下の浅間台というのがまだ昔と同じように仮校舎でして、学園の校舎というものではないような健康管理センターの一部を借りています。あとは、南房学園にしろ、外房学園にしろ、独立した東総学園にしろ、皆さんが想像される以上にキャンパスの能力としてはゆったりと新しい、整備されています。

が、この東葛飾の江戸川台校舎は建てたのが非常に古い。それから浅間台校舎は分校にしちゃうとカーテン一つで200人ずつやっているという授業が成り立たないというような状態です。ですから、中身が同じように理解すると全く差があり過ぎるんですね。質問というより実態です。以上です。

(林会長)

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

(早川委員)

アンケートの結果をご説明いただいたんですが、そもそも生涯大学校の設置の目的と今回のアンケートとは、どのような関係があるのですか。このアンケートと大学設置の目的との兼ね合いでどういう位置付けで、ちょっと意味が分からないかもしれないんですけど、生涯大学校の目的の一番上に「高齢者自ら社会的活動に参加することによる生きがいがづくり」と書いてありますけど、どうも大学校が目指す方向が明確にわからない。どこにポイントがあるのか。

それと先ほどのアンケートのことですが、趣味とか何とかと色々質問項目が書いてありますが、要するに社会的な活動なんか一切やらない、老後、自分の趣味が満たされるようになればいいんだと、こういうことでいいんですか。それとも趣味を活かして、何か地域に貢献するところに目的があるんですか。

我々年寄りの生きがいが満たされれば、生涯大学校設置の目的は達成されるという理解でいいんですか。そもそも財政資金を3億入れていく目的はなんですか。

(里見室長)

今の早川委員のご質問なんですけど、そもそも生涯大学校の目的ということになると思うんですね。それはここに書かれているように、高齢者自らが社会的活動に参加することによって生きがいがづくりを目的としてなんですけど、県としましては、それが地域活動に結びついて、地域の活動が盛んになるような、県としてはその辺までを目的として、今までやっているんです。

この世論調査に生涯大学校をかけたということなんですけど、生涯大学校を見直しするに当たりまして、実際に、県民の方がどの程度生涯大学校のことをご存知なのか、その辺を知りたいということで、今回 35 回の県政に関する世論調査というものの一つの項目として、生涯大学校についてというものを調査項目に掲げさせていただきました。

(早川委員)

要するに、私が今まで勤めてきた部門をリタイアして、残った人生を楽しくやるために陶芸をやってみよう。自分の趣味とか今までできなかったそういうものを満たすために、生涯大学校がある。これは大学設置の目的に合っているんですか、合っていないんですかということなんです。

(飯田課長)

ちょっと補足させていただきます。そもそもこれがスタートしたのは昭和 50 年ということで、当時は一番大きなメインが、高齢者の方の生きがいづくりということで確かにスタートしてきております。それが 30 年経って、現在、県としては生きがいづくり、また、趣味という意味では非常に社会的に変わってきています。カルチャーセンターもできておりますし、NPO の自発的な団体等が変わってきております。

3 年前に指定管理者を入れたんですけど、その頃から地域への貢献とか地域のリーダーとか、そういうものをメインにしてやっていきたいという考え方に、少しずつ変わってきている現状がございます。

このアンケートにつきましては、今言いました 3 年ごととありますけど、3 年前に指定管理者を入れた時に、それはこういう形とちょっと違っているんですけど、やっぱりアンケートを取りました。

現在、3 年ごとに指定管理者を変えるということで、また指定管理者を入れるに当たっての参考資料ということで、アンケートを取っているというのが、今回 2 回目という形になっているところがございます。そういうことで、今、県としては考えているということでご理解いただけるかと思えます。

(林会長)

ありがとうございました。他にいかがですか。

(小林委員)

京葉学園から南房学園までの応募倍率を見ますと、福祉科というのが東葛飾を除いては全部定員割れですよ。福祉科の授業はどのような内容のものをやるんでしょうか。概略で結構です。

(飯田課長)

資料もございますので、お配りして説明させていただきます。

(椎名副主幹)

福祉科につきましては、6 ページのところに書いてございます。社会福祉及び地域社会での活動に必要な知識の習得ということで、ボランティア体験やカウンセリング、手話こういったものも含めまして実施しております。それから介護に必要な知識の習得、健康づくりの関係のスポーツ・レクリエーション、こういったものを授業として実施しているという状況でございます。

先ほど申し上げました社会福祉の関係ですと、特にうちの課の方で説明をしております高齢者の福祉の現状、それから社会福祉協議会の活動、またボランティアの活動関係、介護実習をしております。社会生活に関しましては、消費者と契約の関係、あるいは地域と NPO の関係、環境生活ということで環境全般を少し細かく取り扱いをしてございます。以上でございます。

(林会長)

ありがとうございました。そうしましたら、次の議題の中にこれからの生涯大学のあり方についてということで、その資料 1 ということであります。まずは、そちらの方を説明していただきながら、進めていきたいと思っております。よろしいですか、では事務局、次の生涯大学のあり方について説明をお願いいたします。

(里見室長)

先ほど、課長の挨拶にもありましたように、今年度生涯大学校の見直しを、県の社会福祉審議会の方に諮問するという予定になっております。それにつきまして、資料 1 「生涯大学校のあり方に関する諮問について」というものをご覧いただきたいと思っております。

生涯大学校は、高齢者自らが社会的活動に参加することによる生きがいづくりを目的として、昭和 50 年に開校後、現在は 5 学園 6 校舎（京葉学園、東葛飾学園浅間台校舎、同学園の江戸川台校舎、東総学園、外房学園、南房学園）が設置されまして、2 年制による一般課程と通信課程、専攻課程に約 3,400 人の高齢者が学んでおります。

開学から 30 年を経過しまして、高齢者の意識や行動の多様化、各種講座を備えたカルチャーセンターの台頭、先ほど報告しました市町村における生涯学習活動、NPO 法人等をはじめとする住民による自主活動の進展など、高齢者及び高齢者を取り巻く環境は大変大きく変化しております。

また、近年は、一部の学園において、定員割れの状況が続いておりまして、当該地域における高齢者の生きがいづくりに、現在の生涯大学校ではなかなか対応しきれていないというのが現状でございます。

そこで社会福祉法に定める、社会福祉に関する諮問機関でございます千葉県社会福祉審議会、来週 5 月 19 日に開催の予定となっておりますが、この審議会に今後の「生涯大学校のあり方」ということで、諮問をする予定でおります。同審議会では、今後この当専門分科会におきまして、諮問事項であります生涯大学校のあり方について、

審議答申するというような手続きが行われる予定になっています。

今後の予定なのですが、参考として書かせていただきました。当分科会は、これから3ないし4回開催しまして、平成20年度内に答申するという考えております。

これからこの分科会で、委員の皆様にご審議をいただくわけですが、本日はその次のページに「生涯大学校の見直しの視点」ということで、事務局で作成しました案です。ご検討いただきたいと思います。これは3月、前回の分科会で出されました、委員の皆様のご意見も踏まえまして、事務局の方で作成させていただいたものです。

生涯大学校のあり方についてということで、一つ目、受講者の興味及び要求等を考慮し、時代に合ったカリキュラムを作成する必要がある。二つ目、地域活動につながるような内容・方法等にする必要がある。それから費用対効果の面で、効率的な運営方法を検討する必要がある。先ほど報告の中で、千葉県がどれだけ一人当たりの経費がかかっているかというご説明をしましたが、その関係でこの質を挙げさせていただきます。

四つ目としては、地域の住民や老人クラブ・社協・NPO・ボランティア・大学などの関係団体との連携を図りながら、内容を充実させる必要がある。最後五つ目として、市町村との役割分担について検討する必要がある。先ほどの市町村でそれぞれやっている生涯学習等もありますので、その辺との役割分担についての検討も必要ではないかというふうに考えております。

大きな二つ目として定員割れが著しい学園、具体的には東総と南房学園ということになるわけなのですが、この二つの学園につきましても、一つ目として農林漁業従事者が多く、高齢になっても就労しているため、学習活動に対するニーズは他の地域よりも低く、生涯大学校は昼間の通学、10時から午後3時と一般課程ではなっておりますので、日中の通学がしにくい状況にあります。

二つ目として、現在の生涯大学校の時間、カリキュラム、期間などでは、地域の高齢者のニーズを満たしてはいたないため、生涯大学校からは独立した、時間的にも内容的にも、柔軟性を持たせた新たな仕組みづくりが必要である、この二つを挙げておきます。

これについて、各委員の皆様も色々なご意見があると思いますので、よろしく願いしたいと思っております。

(林会長)

ありがとうございました。冒頭に申し上げましたように、前回3月27日に、皆さんから大変多くのご意見をいただきました。それを事務局の方で、「生涯大学校の見直しの視点」ということで、案としてまとめていただいております。評価してまた皆さんの方からいろんなご意見を伺いたいと思っています。よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

(早川委員)

さっき時間がなくて質問できなかつたんですが、各都道府県の比較がございましてね、一人当たりとか定員とか、7ページです。3の他県の高齢者大学等実施状況の定員との比較では、一般科目で2,150人とかそういうお話でした。

ところが、全部門を入れると3,400人ですよね。今の説明にあったように、大学院とか通信を入れた場合です。資料の職員数とか一人当たりの経費というのは、ちゃんと一般の部門だけに限定して、大学院の方は除いて計算してあるんですか。

他県の大学院がどうなっているかによって、数字が変わってきますよね。これだけいると人数が多いんだから、一般的には一人当たりの経費は少なくないはずですよ。それが7万円というふうに非常に高くいるということは、これだけ見れば極めて生涯大学は非効率だという計算です。

ところが実際には、2,150じゃなくて3,400人を賄っているとすると、一人当たりの経費は少なくなるはずだと思うんです。1,300人くらいが入っていないから高くなると思っていますが、そういう理解でいいんですか。この7万円というのは、一般の部分だけでやればもっと低いんだという理解でいいですか。ちゃんと分けてあげればそれでいいんですけど。

(里見室長)

この計算の中は、通信課程500人というものは除いて計算をしております。

(早川委員)

大学院は入っていますか。

(里見室長)

大学院は入っています。

(林会長)

他にいかがでしょう。どうぞ。

(横山委員)

今、生涯大学校の見直しの視点ということで説明がありました。先ほど早川委員から質問があったと思うんですけど、生涯大学の目的、高齢者自らが社会活動に参加することを目的とするという生きがいくりの上で、これが分かりにくいんじゃないかというご意見があったかと思います。

私もそういうふうに思うんですが、そうしますとこの生涯大学校の見直しの視点の中に、大学校の理念そのものをもう少し明確に、先ほど課長さんの方から最初はどちらかという個人的な活動をするということでもあった目的が、地域活動するものになってきたということがあれば、そういうことが明確に分かるように明文化した方が

いいんじゃないかなと思っております。

ただ、役に立つから地域活動で先ほど陶芸の話が出て、陶芸だけは自分でこねても地域活動かどうか。文化活動であると美術展等につながりますし、色々な問題点があると思います。その辺で理念というものについて、明確化が必要かなと思いますがいかがでしょうか。

(飯田課長)

今のご指摘を踏まえまして、今後検討してまいりたいと思っております。よろしくお願いたします。

(林会長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(野老委員)

助けていただくところですから、できるだけ発言は控えたいと思っていたんですが、私どもは生涯学習が、少なくとも充実した老後を満足させたいためにという望みをたくさん持っていけばどうですか。

その前にもう一つ考えていただきたいということは、社会福祉協議会が社会福祉法で弱者に対する支援、これを助けてやる役割をする。その他福祉法で認定された団体は、すべて弱者指定をされているわけです。従いまして、私たちはやはり福祉法の問題というものを、それこそ一生懸命に勉強して覚えなければならないと思っているんですけど、なかなか難しいんです。

例えば老人クラブですが、老人クラブというのは非常に組織が難しいんです。出るも入るも自由、これは他の福祉法の団体も同じだと思うんです。まずその組織の強化を皆さんが考えてくれるところに、この審議会の大きな問題点があると思っております。

今、福祉法でそれを適用されております団体、つまり 10 年前には私たちはよく福祉六法といったものですが、認定団体は私ども老人クラブを含めていくつあるんでしょうか。

(吉井委員)

8つです。(福祉八法と表現しています。)

(野老委員)

それではききません。また新しい福祉法ができています。正直私が一番今求めていることは、できるだけ自分たちの組織を固めていきたいと思っているんです。自立と育成を大切に一人でも多くの仲間になりたいと思っています。

そのためにもやはり学問が必要だということになりますと、厚生省はその他に 1991

年の国連決議、いわゆる国際高齢者のための五原則というのが市町村役場まで下りてやったんです。厚生省のこれに対する私たちにどうしようということは、私たちの方へも流れて来ています。県庁を通じて市町村役場まではいつているはずですが。

この福祉法と五原則ですね。このコンセンサスを私たちはほとんど追及しなければならないと思います。そのためには県庁の人たち、役場の人たち、そして審議会の皆様にお力を借りられれば、これに超した喜びはないと思っております。

例えば、これをざっと見させていただきましたけど、兵庫県辺りに40%、50%がまだ全体的な老人クラブの加入率を持っているところの生涯大学では、老人クラブを育成するための幹部の育成というのも入っているようです。こういうことがいくらか今までの生涯大学の中で、まだ弱い面があったのではないか。また指導者の中でもその考え方を怠っていたのではないか、という懸念を持たざるを得ないです。

大変恐縮ですが、私どもの部長さんをしております小川さんは全く熱心で、課長以来から随分お世話になりました。私は家庭にお伺いしましたが、本当に感心しましたことは、あの人のお母さんは近所のお年寄りを集めて、一生懸命に老人クラブの勧誘を面倒をみておられます。そういう考え方が私たちの中でもし不足している人はあるかないか。

老人クラブといういたって簡単な、作れば市町村がそれを支援しなければならない法律なんです。法律を守らなければならないということは、県民の一つの義務だと思うんですよ。個人主義者は別です。そこは我々も人格として認めます。でもそうでない方はみんな、老人クラブに入ってこなればおかしいんです。

そのようなおかしい県であっては困る、市町村であっては困る、そういう考え方でいるわけでございます。それらの点を皆さんがもし、いい案を出していただければ大変ありがたいと思っております。県庁も一つなにとぞ色々教えていただきたい、そんなふうに思っております。

確か今福祉法が10あるはずですが、一つは社会福祉協議会ですけども、その他は弱者団体として認定された団体なんです。その人たちが幸せにならなければならない。満たされない自分たちのそこを誰が助けてやるのか、そういう基本的な立場で考えていかなければならないと思います。これも一つどうかご審議よろしくお願い申し上げます。お話しさせていただきます。ありがとうございました。

(椎名副主幹)

恐れ入りますが、先ほど、早川委員の方から他県の高齢者大学校の経費の関係で、説明が不十分だった部分があったと思いますので、今一度ご説明をいたします。7ページの他県の高齢者大学校等実施状況の一番下に、一人当たり経費として掲げてございます、それぞれの各県の状況です。この欄におきましては、補助事業の関係については一部の計上ということで除きまして、委託とか直営の関係の方について掲げてございます。

実際に経費として計上されている金額に、定員が満たした場合の数値で除しており

ます。実際に千葉県の場合ですと、先ほど申し上げた通信課程を除いて2,150人、一般課程と専攻課程の定員に、2年制ということで倍にした4,300で割った数値で、約7万円を出しております。

同様に各県の状況も、定員が1年制であればその数値、2年制であれば倍数をした数値で割ったものとして、実際に学生数が状況として分かりませんので、定数がいっぱいになった状態として除して、一人当たり経費のところを出しております。

参考の方の一番下に掲げてあるものについては、実際の諸経費の関係の数値を出しております。学生数においても実数値、経費についてもそれぞれ必要経費の全体まで出ている状況の中でやっております。かかった総経費と事業費を意識しまして、除いたものを実学生数で割ったものが一番下の参考数値になっております。

千葉県の場合は、東総・外房・南房において定数を若干割れているところとか、6割になっているようなところがございますけれども、そこが定員になった場合に約7万円の経費になります。そこが満たしていないので、実数値としては8万7千円かかってしまうという状況になっている、ということがございます。

(早川委員)

関連して、本日のテーマは効率的な経営というのがどこかに出ていますね。この生涯大学の見直しの一つのポイントになると思うんです。その時この参考の下に書いてある総経費マイナス授業料の考え方ですが、授業料を差し引かないで一人当たりどれくらい経費がかかっているかというふうに考えないと、本当の経営の効率というのは望めないと思います。

授業料をうんともらえば、職員の方にうんと給料を払っていいのかとこういう議論になりますから。そういう収入を除いて経費がどのくらいかかっているかというふうに考えないと、効率を考える時はうまく考えられないと私は思います。

だからここに7万円と書いてあるけど、実数でいけば9万円近くになっています。後ほど議論になると思うけど、経営のあり方、運営のあり方についてはかなり効率が悪い。それは無駄に使っているという意味じゃなくて、教室がいっぱい分かれちゃっているからだとは私は思っていますけど。いろんな問題があると思いますけど、そうしていかないと原因がつかめないのではないですかという意見です。

(飯田課長)

どうもありがとうございました。そういう視点でまた考えてみたいと思います。もう一つ説明を略したんですが、8ページを見てください。下の学園別職員数のところでございまして、今現在効率性という意味から見ますと、生涯大学校のやり方というのが千葉の方に事務局を持ちまして、そこが主旨コントロールしております。そこでかなり内部管理経費というのが多くなって、その結果上のページの人件費の割合が約2億ということで、今の形が非常に内部管理経費がかかっているという現状がございます。



それから早川委員のご指摘された視点については、色々参考になりましたので、効率性等も考える場合には参考にさせていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

(林会長)

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。どうぞ。

(國生委員)

あり方についての最初のところに、時代にあったカリキュラムを作成する必要があるとあります。私が感じているのは、共通科目について受講生全員に、授業内容についての評価を毎回出させているというふうに聞いておりました。そういうものを一度大学の方から提出してもらって、カリキュラムを作成するに当たって参考にすることが必要なと思うのが一つです。

それから定員割れが著しい学園については、独立したやり方をしていくという案が出されておりますが、各地域の学校、東総・南房学園以外のところは全校統一のカリキュラムをすべきなのかというところで、やっぱり疑問に思います。もう少し学生などからの授業内容に対するアンケートなどをちゃんとして、個々の地域性に合わせた個別性を、もう少し尊重する仕組みを考える必要があるのではないかなと思います。

もう一つは費用対効果の面と、次の丸のところで地域の住民や老人クラブ、社協、NPO等との連携を図りながら、内容を充実させる必要があるという案を掲げていただいていますけども、二つを関連付けて、各学校の専門課程を修了しておられる人の中で、地域活動に実際に結びついていらっしゃる方などを講師としてやっていただくと、その方たちは地域活動に貢献することになっていくわけです。

そういう方向をもっと取り入れて、安くすればいいということではないと思いますが、そういう方たちの活動の場を大学にしていくというのも一つの方法かなと思います。

(飯田課長)

ありがとうございました。今の視点も今後入れて考えたいと思いますが、千葉県の生涯大学校の場合は、全学園が共通の単位を取らないと卒業証書を出さないとか、非常に柔軟性の利かない体制になっています。

ですから、そもそもあり方として、地域性にあったということであれば、今の形、年間70単位ですか、それを取らないと全学部いけませんよとか、そういうことは考えていかなければいけないということも、私どもも思っています。今のご意見も参考にさせていただきたいと思います。

(林会長)

ありがとうございました。他に。

(吉井委員)

今、それぞれの地域でばらばらになっている、これはやっけていてすごく感じたんです。基本的に言いたいことが二つあります。一つは福祉の施設のようにしてだけ生涯大学校を考えるとという考え方と、一つの高齢者教育という教育という立場で考えると、視点がちょっと違うのではないかと思います。

高齢者教育の方でいえば、修了証書は出さなきゃならない、そういうものの縛りがあります。それから学園長、要するに堂本知事の卒業証書を出すという形だと思えます。めちゃくちゃに地域性が特別だからといって、変わった授業をその地域でやって、同一の修了証書を出していくというのはちょっと考えにくいです。

千葉県という冠をつけてずっとやっていくという縛りがあるとすれば、まず指定管理者制度というものの問題にすぐ引っかかると思うんですが、千葉県生涯大学校と言えばやるべきこと、例えば今でいうところには載っていないんですけど、実際やっているのには「房の国講座」といって千葉県の歴史とか文化とか民話とか、こういうのは全員学習する。それが千葉県での生涯大学校の特色になるというような、そういう部分はいっぱいあるということです。

けども、それぞれの地域について選択科目というかそれはいいと思う。そういうのを一律にばらばらにやって、全く意見としてはおもしろいんですけども、そういうことをやると冠がなくなってどうするのかと思います。要するに、生涯大学校と言っているながら福祉施設になってしまう、定員割れの部分で教育効果みたいなもの考えている。

僕は、この際学校法人のような法人格を逆に持たせて、もっと強くしていくという考え方もあるような気がします。千葉県というのをつけるというのは、皆で検討したいと思っています。つける以上は福祉でもそうなんですけど、各地域でいうと、職業によって福祉の知識が違うんですが、介護保険制度といったものは全県中通用する知識ですから、そういう点で千葉県では教育カリキュラムを充実させなくてはならない。

(國生委員)

ご意見はよく分かります。全部地域ごとにしたらいけないかということではなくて共通するもの、理念とか目的とかというのをきちんとした上で、その理念に基づく授業内容、これだけは外せないというものがあれば、そこは県の方針できちんと決めておいて、それ以外のところで市町村との役割分担について検討する必要もあるという案も出ているものですから、どの部分で市町村と連携ができるのかということを考えたら、地域的な個別性を尊重する部分も入ってこないと連携というのはできないのかなと思いました。そこの融合というんでしょうか、うまくやれるような仕組みを作る必要があるのかなと感じました。

(吉井委員)

今の反論ではなくて、千葉県はあくまで県の施設として考えていくというのは変わ

らないんですか。

(飯田課長)

県としましては、冠をつけたものは引き続きやっていきたいと考えております。ただやはり、今のような状態でこのままでいいのかというのは、いろんなところから声が出ますので、そういうものについてはどういう形でやっていくのかというのは、やらないといけません。

冠としては外す考えは今のところございません。これだけ歴史もありますし、これだけの卒業生もいますので、そういうものについてはできるだけ体制としてやっていきたいと考えております。

(赤田委員)

今、市町村との役割分担についての話が出ましたが、これはこの前の会合での意見を基にして出てくることは分かっておりますが、市町村との役割分担について検討する必要がある、その中身についてです。生涯大学の再編整備をするためのポイントとして、市町村の現在やっているそれを対象にするのか、要するに今過疎地域のところの大学のあり方が問題になっているわけです。

それと市町村のやっているプランの役割等をうまく連携をとる中で、例えば過疎地域ではこの市町村でこれだけやっているんだから、再編統合する一つの材料にするんだという意味合いの検討の材料とするのか、再編整備ということに関して県としての考え方を伺いたいんです。

(飯田課長)

今のご質問ですが、基本的にうちの方は、ここのつけた意味は、これでやっているからいらんだという視点は持っておりません。いずれにしても責任を持って検討してそこでやっておりますので、それをもし形を変えていくということであれば、基本的な市町村とまた連携していきたいという質もあるだろうということで、そういう視点での考え方でございます。

なんの手もつけないで、市町村がやっていますから県はという考え方は持っていません。ただ、市町村との連携等については、当然絡んで変わらないといけないだろうと考えております。

(赤田委員)

しつこいようですが、再編整備ということは大いなる視点になっているんですね。再編整備をしなければいけないということは一つの課題であるんですけど、どうでしょうか。

(飯田課長)

県としてはそう考えております。

(早川委員)

今の関連ですが、先ほど生涯大学校は何かという判りきったことを聞いたのは、このいただいた資料に、共通科目として地域指導者としての活動に必要です、これが大切だということで、その他にいろんな項目が入っているんだろうと思います。

市町村との関連なんですけど、市町村とかコミュニティの活動のリーダーとか指導者になるような人が、ここから数多く出て行くというところに生涯大学校の狙いがあると考えていくべきではないかと思っています。それでいいのかどうかというのを議論していただきたかった、ということが最初に聞いたことです。

ただそうすると地域の要望、いただいた資料をパッと見ると、例えば議論になるであろう一番南の方の応募状況で、地域のリーダー的なものを育成するという役割を担っているような、福祉科とかそういうところの応募が非常に少ない。これは南だけではなくて、全学園とも福祉科の人が少ないんですね。どっちかという趣味である園芸とか陶芸とか、そういうところが非常に多いです。

私は、それはそれがかまわないと思うんですけど、やっぱり生涯大学校は、何か地域の指導者を、ここで入った人が全員そうなるとはならないが育成していくんだ、というその線は外すべきではないと思います。福祉科の学生が少ないから止める、そういう機能をなくしちゃうとかすると、かえって学校の費用効率が悪くなるんじゃないですか。そういう効率よりも、守らなきゃいけないところは守っていく必要がある、こういう意見です。

(林会長)

はい、ありがとうございます。

(岩田委員)

私は、初めてこの会に参加させていただいて話をお伺いしましたが、よく分かりません。複雑怪奇でありました。これに似たようなものは、各市町村ほとんどやっているんですね。リーダー養成という話でありましたが、リーダー養成をするということになってくると、その地域のある年齢の方たちのリーダーをつくらうとすると格差はかなり生まれてくるから、定員割れするのは当たり前のような気がします。

今の学ぼうとする科目にしても、地域の差はいっぱい出てくるだろうと思いますね。仕事柄そのことをやっている地域に同じものが入っていくし、またその仕事に携わらなかった、趣味としてやりたいなというところに持ってくればたくさんの方が集まるだろうし、自分の仕事としてそういうものを作ってこられた地域に、あえてこれを学ぼうということよりも、文部指導員の下で徹底的に何10年もやってきた方ですから、逆にそれは指導者になれる立場だということですよ。

ですから地域性というものは、千葉県の中の全体像を見て、そういうもののとらえ方ですけど、この学校にあるなら全部に統一させてしまわなきゃいけないということもないような気がします。

通常の大学校ではその専門学校ですから、それを学ぼうとする人たちが自由に選択します。地域性が足りないといって全部入れようと思うんですけど、あえて定員割れを起こすことであれば定員数を少なくしたり、違う部分のウエートを高くして、定員数を多くしたりというような方法もとれると思うんです。

私は、これからこういう年齢に入るんですけど、これを学ぼうという気がしないんです。なぜかというと、私たちのニーズというのはそうじゃないんです。これを学んで何かしようという年齢には 60 歳からと書いてありました。本来はリーダーになるには早くこれを習得したり学んだりして、その余力を発揮するというのですが、我々の年代層はどちらかということに興味なんですよ。

今、団塊の世代の人たちが 60 歳になって辞めてくる。ほとんどが今までやってこれなかったことを何かしようということはあるんですけど、第 1 番目は趣味なんです。失礼ですけど大変な貧しい、物が充足していない時代に生きてきたものですから、ある程度余裕ができたならこれをしたいという、一つの大きな目的を持っているんです。それと退職して、少し余暇を使って何かしよう、ということが本当にあるのかなという現実があります。

例えば、輸入バイクが圧倒的に売れているんです。購入する人は 60 歳前後の男女です。男だと思っていたら女性なんですけど、ハーレーダビッドソンの 1500cc を乗りたい、それから 1800cc のバイクに乗りたい、そういうニーズが非常に高い。それを自分で直せるかどうかの技術を学ぶ。ニーズが発散しているんですけど、なかなか周りの環境がそれだけ整っていないです。

また、テレビなんかでもこういうことだと、やっとな気が付いたということを経営するんですよ。心理状況はもう 10 年くらい前でもそういう心理があったんですよ。60 歳になったら、かつて若い頃にあこがれていたハーレーに乗って外へ繰り出したいという意識は、10 年前の 50 歳過ぎた男女の人たちに、非常に興味を持たれていたことは事実なんです。

ところが、やっとな気が付いて 10 年後、その年齢がきて実際にバイクが売られていて、非常に輸入バイクの数が増えたということで、この間 NHK が取り上げて報道していました。すでに 10 年前からこういう動きはあったということは事実です。今はどちらかということ静かなカレッジですよ。でもこれからはこういう部分はあるが、もっと飛びぬけたところが出てくるだろうと思います。

今、成人の方は体を鍛えるためではなくて、本当のアクションスポーツが 60 歳以上の人たちにあるんですね。ラグビーにしてもサッカーにしても、水泳にしても陸上競技も。そういうもので体を鍛えて何かしていこうという人たちが、70 歳過ぎても競技会に参加して体力を競うという動きも多いんですね。

ですから、そういうところの今度は水泳をやりたいということになると、民間型の

スイミングスクールなんかで、その人は朝から行って1日中泳ぎます。千葉県の人たちは優秀ですから、水泳では多分1位か2位になるでしょう。これも会社を辞めてから10年間、全く素人から始めて水泳の競技会に目標を持ってやっておられる。すごいことだなと思います。これだけ長い間こられた実績もありますから、すごくいいと思います。

この他にももう少し該当するような年齢の方たちの、これから5年後になる人たちのアンケートというものの調査が必要なんじゃないのかなと私は思います。というのは、今通われている方たちからアンケートをとったり、地域の中でその該当者だけにしか絞らないということになってくると、ついていけない部分が出てくると思います。

実際に、私などは学生時代なかったような学科が、今の大学には相当あります。私なんかの感覚でいくと、何の学部だかよく分からないようなものもどんどんできてきています。もうちょっと調査というものの角度を変えて、いろいろニーズに合ったとか、これからこうなっていくであろうというものも取り入れて進めると、こういう場合ほとんど分かるんですけど、そういうものが出てくるんじゃないのかなと思います。

併せて、事務局の方の方々が、まさしくこれから行こうとする年齢ですから、聞く話ではなくて、もしこういうことであればぜひ入りたいなというようなものも、自分たちの一番手っ取り早い方法で選べるんじゃないのかな。県庁は何千人というその該当者がいますから、そういう話も入れてやったらどうかと思います。

奉職者として使えましたが、逆に今度は各地域に分散して、今いるリーダーとして活躍いただく時期がやってくるわけですから、そういう意味においてはそういう考え方もよろしいんじゃないかと、私は思います。

(吉井委員)

岩田さんの意見のこれに魅力を感じないという、ちょっと表現は違うかもしれないけどそういう受け取り方、同感です。なんで感じないのかなと思うと、例えば年金だとか退職金とか、いろんなお金に関してみんな被害を受けたり、金利がえらく低くて、それを困っています。

意外と小金を持っていて、そういう投資みたいな運営を安全にやると、そういうような話だったら飛びついていくと私は思うんです。みんな困っているんですよ。そういうニーズなんです。

それから福祉の方が専門なので、介護予防というのも厚労省でやっている。介護予防もぜひ取り上げて、寝たきりになる前に消火役の防火というか、介護予防という制度が取り上げられているので、そういうのを普及すればいい。その延長線に生涯大学だと無理だと思います。

私自身は、隣の町で順天堂大学のプログラムに入って、毎週週3日、泳ぎをやっております。たくさん求めるといえるのは考え方は分かるんです。プログラムはそれぞれ学ぶことはできると思います。水中運動を勉強だけには終らせない。お帰りに施設を

ご覧になると、講義者としては座ってデスクで勉強するだけの、それは一応整っています。園芸もそういうことで、それ以外のものというのは今のところないです。

(岩田委員)

私は勉強嫌いなものですから、こういう大学だとかカレッジだとかというのが文章に出てくると、瞬間的にだめだなと思ってしまうところがあります。もっとある意味ではすんなり入りやすいし、結果が続けることによって1回ごとに自分の知識としてためになったということで卒業されていかれて、充足度があって止められる、そういうような魅力みたいなものが欲しいなと思います。

学ぶ方は結構いると思いますよ。それが形で50年代から始めてもう30年経ってくるので、だんだんあまりにも学校らしくなってしまうたり、がんじがらめになってしまうと逆に入りづらいです。

年配になって自分の知らなかったようなことを学んでみませんかとか、新しい分野のことを学んでみませんか、というようなニュアンスならいいと思うんです。が、こういうものが全部決まったような形で出てきて、これしかやらないとかこれをやってくださいとかという形になると、なかなか飛び付きが鈍いんじゃないかと思いました。

私は実は、聖路加病院の日野原先生の話聞くことが仕事柄多いんです。先生に、なんでそんなにお元気なんですかと聞いたら、自分の信念なんですね。健康にも留意しているし、自分流の健康づくりをしてきました。だから、皆さんの前で話をする時、座ってしゃべることはしないんです。1時間くらいずっと立ちっぱなしです。

その話をしている時に、こういうことをすれば元気になれるんだなと元気をもらって、そこに参加した多くの人たちは先生から何を学んだかですよ。元気というのは一言で何だと言えないんですが、そういうインパクトをもらったという感じですね。

(吉井委員)

話が脱線してすいません。今のカリキュラムの問題だけではなくて、これからまた指定管理者というような制度を活用するんですよ。そういうあり方も話し合いたいと思いますけどね。理由は分からないですけど、誰が運営するか。全部県が作って、はいどうぞ運営だけ任せます、というのも大学の理事会なんか勝手に、教授は一切関係ないという形になると教務は困惑する。

(早川委員)

生涯大学校とカルチャースクールがどう違うのかということ、はっきり解説してくださいと最初から言っているんです。議論していると、カルチャースクールみたいな議論が出てきたり、生涯大学校という公的な目的を持った議論が出てきたりして、分からないよというのが最初に申し上げたことです。

陶芸だけやって土をこねていればいいんですか、それで大学設置の目的に合っているんですかとか言っているのは、そういう意味なんですよ。そんなことをどっちか

1本に明確にするというわけにはいかないですし、考え方は色々あってもよいのですが、1本通すところは通しておいた方がいいですよということです。

(小林委員)

カリキュラムの中に陶芸とか園芸とかありますが、老後を趣味で生きようという考え方、つまり第2の人生を、余暇をどう過ごすかという視点は、高度経済成長時代の考え方のように思えます。一生懸命働いて、残った人生を楽しく趣味で生きようという考え方は、高度経済成長の時代のものじゃないかなと思うんです。

私も年をとってリタイアしましたが、何をまず考えたかという、残された人生は何か仕事を、あるいは地域に役立つような活動をしていたいということでした。

今、時代背景がだいぶ違ってきています。高度経済成長から低成長の時代に入り、定年退職した多くの人たちは、老後の暮らしに不安を感じています。

何か自分の力で新しい起業を、それも地域に貢献できるようなコミュニティビジネスであれば、なおさらいいということを考える人が多いんですね。そういう講座もあちこちで今行われております。

いつまでも趣味、趣味でゴルフをやりたい人が、ちょっとしゃれた洋服を着てクラブを持って、駅のプラットフォームに一人寂しげに佇んでいる、なんて風景があるわけですね。私が言いたいのは、このカリキュラムを考える上で、時代背景の違いというものを頭の中に入れておく必要があるんじゃないかということです。

もう一つ。生涯大学の目標のひとつに地域に貢献する、地域活動に役立つリーダーの養成というのがありますが、リーダーというと役目が重すぎて、かえって敬遠するという点はありませんか。それよりも地域に帰る、地域と交流しながら地域のためにどう生きるかというところに視点をおいたカリキュラムにしていったらどうかな、そうあるべきではないかと思います。

この千葉県の生涯大学校は、昭和50年に作られて非常に歴史が古いこと、それから3億円ものお金をかけています。費用対効果を考えて、もうちょっと整理縮小したらどうかと考えがちですが、むしろ歴史があって高い理想の基につくられた千葉県の生涯大学校ならばこそ、この歴史と費用を大いに活用して、むしろもっといいものにしていきたいと思います。

(野老委員)

今、残念ながら私ども老人クラブ連合会は、10%は維持しておりますけど、すでに10%の加入率を切ったところが14、5できています。そういう中で八日市場、匝瑳市ですね、匝瑳市はまだ50%の加入率を維持しております。そこは何10年間も講座方式で老人大学をやっているんですよ。これを一つ県の方でも調べてみてくれませんか。まだあそこだけが50%に近い加入率を維持しておりますので、よろしく願いいたします。講座方式で、何10年もやっています。



(林会長)

今日も非常に活発な、大変有意義なご意見が出ましたように思います。時間もだいぶ 12 時に近づいてまいりました。残り少ないんですが、最後にもう 1・2 点ございましたらお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

(國生委員)

早川さんがおっしゃってくださったんですけど、つくづく思うんですが、高齢期を元気で生きていくために何かやれることをすることは非常に大事だと思って、趣味というのも一つですからそれをないがしろに思うわけではないのですが、個人的な趣味を追及する、こうやりたいという気持ちを県の税金で維持するべきものなのか。

自分から趣味として行うものは自分でやるべきで、県が補助をして趣味の追求をしてもらうというのが果たしていいのかどうかというのを、市町村のいろんな生涯学校的な取り組みの時もいつも疑問に思うんです。そういうことが必要だった時代は確かにあったと思うんですが、これから先はそれでいいのかなというのを見つめながら、この案を考えたいなと思います。

(横山委員)

私は、岩田委員のおっしゃるのと違って、この大学にあこがれたんですよ。もう何年も前に定年になりまして、なんであこがれたかといいますと陶芸教室があったからです。でも入れないんです。今までの数値が示していますとおり、一番これまでのカリキュラムで人気があるのは陶芸と園芸ですね。

お話のようにまさしくそれは、ただ個人の趣味の延長でしか過ぎないですけども、応募者が多い、あるいは地域のニーズのようですね。住んでいる人たちの千葉県の生涯大学に対する期待というのも、趣味の部分がかかなり重いということは間違いないですね。

これからは専門の教育論の中に入ると思うんですけど、さっきもちょっとお話ししましたが、直ちにその結果指導者になる、あるいは地域の生活・活動に役立つということだけが生涯大学の目的、あるいは個人的な市民を育てることも大学の一つの目的になりうるのではないか、それはやっぱりあると思いますね。特に都市部の園芸と陶芸に関する希望者が多いです。

ただおっしゃるように、年代が少し上かもしれません。私も上ということはない、早川さんと同じなんですけど。ですから必ずしもすぐ直結する、しないということよりも、皆様方のニーズが今どこにあるのか、さっき岩田委員もおっしゃったように、これからすぐにそういうものに対して、自分たちが入っていきたいというものについてお考えいただくということは賛成です。かといって今までやってきたことが、必ずしも否定されることではないというふうに思います。

(早川委員)

今、リーダーになるとさっきから言っていますけど、なにも一つの団体をつくって、

そのキャプテンになる人を教育するとか、育てると言う意味じゃなくて、今コミュニティな活動というのは非常に活発ですよ。おそらくさっき公民館の活動というお話が出ましたけど、都市及び都市近郊の公民館を借りようと思ったら、なかなか借りられないですよ。

そういうコミュニティの活動の中で、なんとなく中心になるような人が出てくれればいいのであって、なにもキャプテンだけが出なくていいんですね。ちょっと言い方がおかしかったから、極端に言ったからそうとられたかもしれないけども、今、ご発言のあったような意味で、地域のコミュニティ活動の中で、ある程度皆をまとめていくような、リーダーシップが発揮できるような人がこの大学校から出ていけばいいという意味で考えています。

ただ、國生さんの意見は、私もそう思いますね。だからさっき、カルチャースクールとどう違うんですかというのはそういうことです。趣味だけだったらカルチャースクールへ行ってくれといえればいいんですから。そのご意見を反対という意味じゃないです。そのとおりだと思います。

(小林委員)

質問ですけど、老人福祉専門分科会3～4回開催して答申ということですが、どういうふうに進めていかれるんですか。

(飯田課長)

来週全体会議があります。そこで正式に手続きに入っていきますので、事務局の方で先進的に取り組んでいる高齢者の大学校と、もう一つ市町村との連携等どういう連携をしていくのかというのを調べてまいりまして、その中であり方の骨子的なものをつくらせていただきます。

それをまた委員の皆様にご審議いただいて、最終的には答申という形にまとめていただければありがたいと考えてございます。

(小林委員)

吉井先生がおっしゃったように、管理運営はどうするかというところも大きな柱になっていますか。

(飯田課長)

運営につきましてはご存知のとおり、小泉改革の関係で公の施設はすべて指定管理者にしなさいということになってございますので、あくまでも指定管理者にしなきゃいけません。そうしますと、うちの方ではここを1本釣りとかそういうことはできませんので、なるべく幅広く全国に向けて、指定管理の雑誌等もございますので、そういうものに長けたところに応募していただくような形で、指定管理者を選んでいきたいということになります。

ただ、本年度で指定管理が切れるんですが、いずれにしても新しい形での募集というのが間に合いませんので、とりあえず最低1年間は、今の形でやっていただけたところを公募するということになるかと思えます。指定管理については、公募して一番ニーズに合ったものを作ってくれるところを探すという努力は、県として最大限やっていきたいと考えております。

(横山委員)

指定管理の質問ですけど、応募者は選ぶほどたくさんありましたか。

(飯田課長)

前は2社しか応募がございませんでした。ただ、今時代も変わりまして、指定管理が全国的にもポピュラーになってきましたので、指定管理という雑誌もできました。そういうものに載せて、なるべく広く募集していきたいと考えております。

(林会長)

今日は皆さんから大変活発なご意見等出て、有意義な分科会がおかげ様でできたと思います。時間も12時になりました。先ほど言いましたように、年間を通しましてもう3、4回ございますので、本日につきましては終了させていただきたいと思えます。大変長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。

(永野副課長)

どうも林会長ありがとうございました。

以上を持ちまして、平成20年度第1回社会福祉審議会老人福祉専門分科会を閉会させていただきます。

なお、次回の分科会の開催は、7月下旬を予定しております。

日程につきましては、参加できる日を皆様にお聞きして調整させていただきます。御協力ありがとうございました。